



まちかど ま インタビュー

公設商業施設の建設工事が開始 町民の帰還促進へ向けて

未だに多くの町民の方が避難生活を続けていますが、買い物先への不安解消や帰還促進に向け、公設商業施設の建設工事が始まりました。施設の完成に対してどのような想いがあるのか感想を伺いました。



北郷 光一さん
(上北迫・二本枿)

現在は、町内において不足している食料品や生活用品等を休日の度ごとに、いわき市の大型スーパーで1週間分まとめ買いをしてきました。商業施設が開店すれば利便性の面からも役場前ということと、遠くま

で行くこともなくなり通勤帰りにも利用できるので大変助かります。早く施設が完成し、開店することを待ち望んでいます。



早期完成が望まれている商業施設



根本 みつ子さん
(上浅見川・南山)

不便な生活状況の中、公設商業施設が建設され、地元で買い物ができる事で安心して喜んでいます。

また、商業施設の早期完成により、多くの町民や高齢の方も町民バスを利用し、日常的な買い物を通し、お互いに情報交換など地域間交流の場として輪を広げ、広野町全体の活性化へ向けての拠点となることを望み願っています。

編集後記

今年の秋は早いという、柿の実が色づき秋あかねが舞い、日暮れと共に虫の音が賑やかになりました。

あの震災と津波、そして原発事故、あれから4年半が過ぎ稲作を再開してから3年目、黄金色の稲田は大型コンバインであつという間に刈り取られて行く。その季節になれば万物が芽を出し、花が咲き実をつける自然の摂理は変わらないのに、人の心は変わってしまつた気がしてならない。

一人一人の考え方が違つのは当たり前、むしろ違つ方が良いのかも知れない。町民の立つ位置もそれぞれ異なる。町に戻つてきて良しとする人、放射能への不安がまだまだ拭

できずにいる人、子供の学校が一区切りつくまでやむを得ず避難地区で住み続ける人など様々な状況で現在に至っている。しかし、広野町を愛し、自分のふるさとを思っている人達は必ず帰町すると私は思う。

まずは30〜40年要する廃炉作業が順調に進み、少しでも放射能の不安が無くなることを深まる秋に思うところです。(塩 史子)

発行・編集責任者
議長 鈴木紀昭
広報委員長
委員長 渡邊正俊
副委員長 北郷幹夫
委員 塩 史子
委員 渡辺久長
委員 門馬 巧
委員 畑中 大子
委員 小磯 利雄

次の定例会は12月です

